



2017年度 coLLabo婦人科アンケート 調査結果（抜粋）

I 調査概要

1. アンケートのテーマ

セクシュアルマイノリティ女性の婦人科受診の実態調査

2. アンケート目的

セクシュアルマイノリティ女性は婦人科疾患のリスクが高い一方で、婦人科への抵抗感から受診を避ける傾向があるとされる。当事者の婦人科受診の実態や求める医療サービスを明らかにし、医療機関・医療従事者への改善提言や今後のプログラム作りに活かす。

3. アンケート期間

2017/10/21 ～ 2018/2/20

4. アンケート方法

coLLaboプログラムの参加者にアンケート用紙を配り、回答を記入してもらう。

5. 回答者数

63人

II 調査項目

- Q1 婦人科を受診したことがありますか？（検診を含める） →「はい」はQ3へ
- Q2 (Q1で「いいえ」の方へ) その理由はなんですか？ →Q12へ
- Q3 現在、婦人科系疾患で通院中または経過観察中ですか？
- Q4 婦人科へはどれくらいの頻度で受診しますか？
- Q5 婦人科を受診しようと思ったきっかけはなんですか？
- Q6 これまでに受診した婦人科で、嫌な思い(不安・不快・恐怖など)をしたことはありますか？
それはどのような内容でしたか？
- Q7 問診票についてお聞きます。以下の質問の中で、答えにくいものはありますか？
- Q8 (Q7で「ある」の方へ) その理由はなんですか？ ↳「ない」はQ9へ
- Q9 婦人科でカミングアウトをしたことはありますか？ →「ない」はQ11へ
- Q10 (Q9で「ある」の方へ) その理由はなんですか？ →Q12へ
- Q11 (Q9で「ない」の方へ) その理由はなんですか？
- Q12 妊娠・出産経験のない女性は、婦人科系疾病リスクが高まることをご存知ですか？
- Q13 セクシュアルマイノリティ女性として婦人科の医療機関、医療従事者にご意見・ご要望があればお聞かせください

III アンケート回答者の属性

SA=単一回答、MA=複数回答、FA=自由回答

項目		人数	構成比 (%)	有効回答率 (%)
全体		63	-	-
年齢 (SA) *平均年齢= 34歳	20代	17	27	98
	30代	27	43	
	40代	12	19	
	50代	6	10	
	無記入	1	2	
居住地域 (SA)	茨城県	1	2	97
	埼玉県	6	10	
	千葉県	9	14	
	東京都	23	37	
	神奈川県	21	33	
	静岡県	1	2	
	無記入	2	3	
セクシュアリティ (MA)	レズビアン	32	51	94
	バイセクシュアル	11	17	
	FtX	5	8	
	FtM	1	2	
	MtF	2	3	
	わからない	3	5	
	決めていない	5	8	
	その他	3	5	
	無記入	4	6	
カミングアウト	している	48	76	94
	していない	11	17	
	無記入	4	6	
女性の恋人・パートナー	いる	16	25	94
	いない	43	68	
	無記入	4	6	
同性パートナーシップ制度を利用したいか	はい	26	41	94
	いいえ	3	5	
	わからない	30	48	
	無記入	4	6	

(結果の概要)

年齢は30代を中心とする20～50代で、居住地域は東京都とその近県が大半を占めた。セクシュアリティはレズビアンが半数であり、そのほかに多様な女性がいた。また、生活状況や考え方については、カミングアウトしている人が76%、女性の恋人・パートナーのいる人が25%、同性パートナーシップ制度の利用を望む人が41%であった。

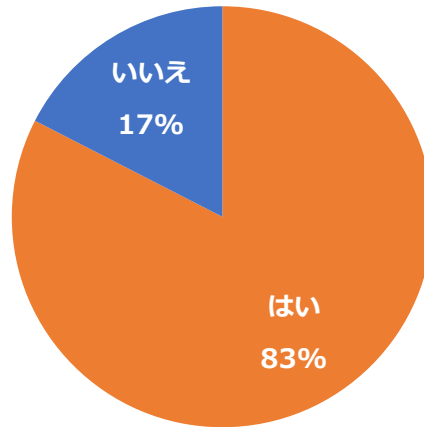
IV 調査結果

SA=単一回答、MA=複数回答、FA=自由回答、RR=有効回答率

Q1 婦人科を受診(検診を含む)したことがありますか？

※以下、「受診」には検診を含める

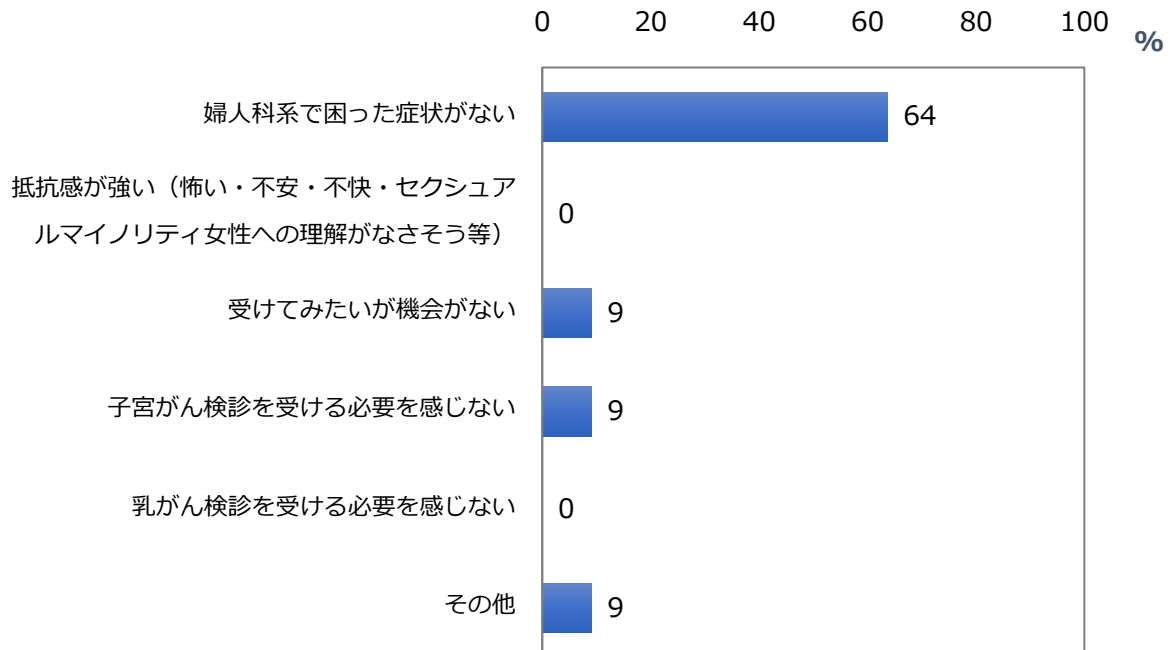
(SA) (n=63) (RR100%)



(結果の概要)
受診率は83%と高い。

Q2 (Q1で「いいえ」の方へ) その理由はなんですか？

(MA) (n=11) (RR100%)



(結果の概要)
受診しない理由は、「困った症状がない」に次いで、「抵抗感が強い」が36%と多い。

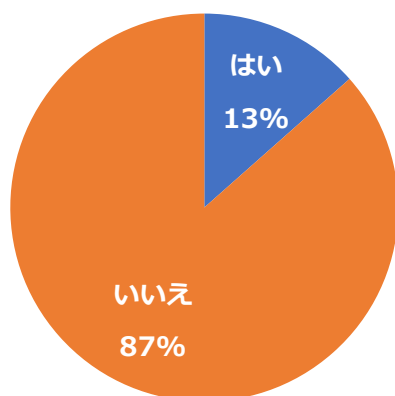
Q3 現在、婦人科系疾患で通院中または経過観察中ですか？

※Q3～11は受診経験者のみ回答した

(SA)

(n=52)

(RR100%)

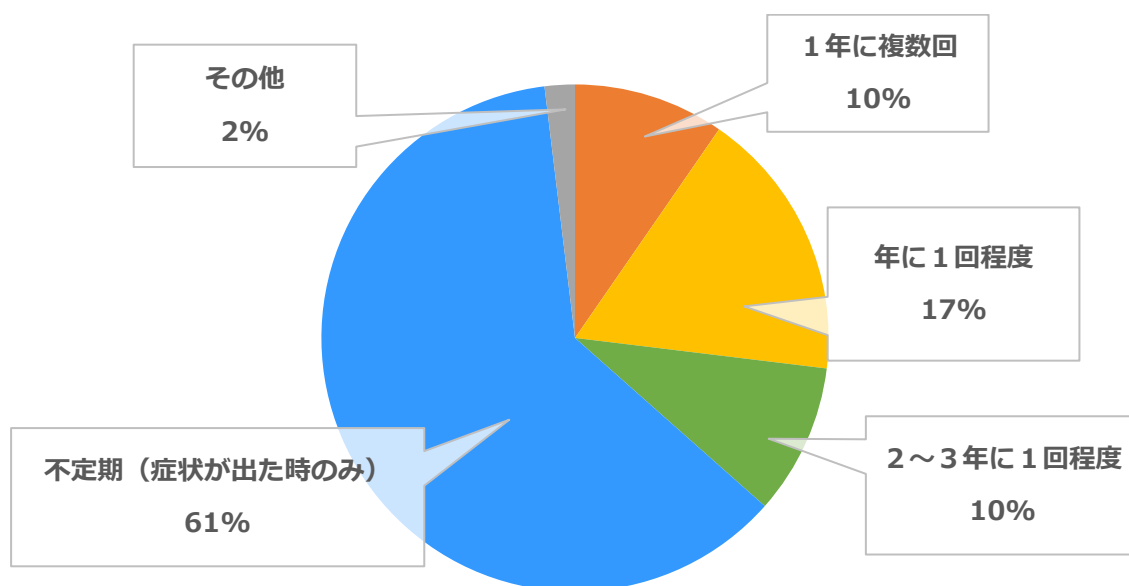


Q4 婦人科へはどれくらいの頻度で受診しますか？

(SA)

(n=52)

(RR100%)



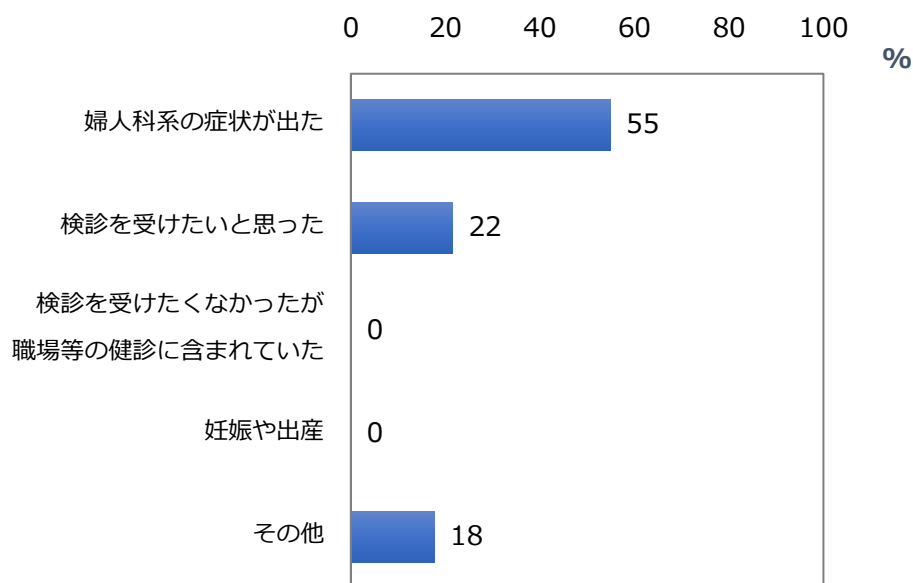
(結果の概要)

受診経験のある人のうち、理想的な「年に1回以上」は27%と少なく、「不定期(症状が出た時のみ)」が61%と最も多い。

(受診経験のない人も含めると、「年に1回以上」は22%。受診経験者のうち通院・観察中の人を除くと、「年に1回以上」は25%、「不定期」は66%。)

Q5 婦人科を受診しようと思ったきっかけはなんですか？

(MA) (n=51) (RR98%)



「その他」の自由回答

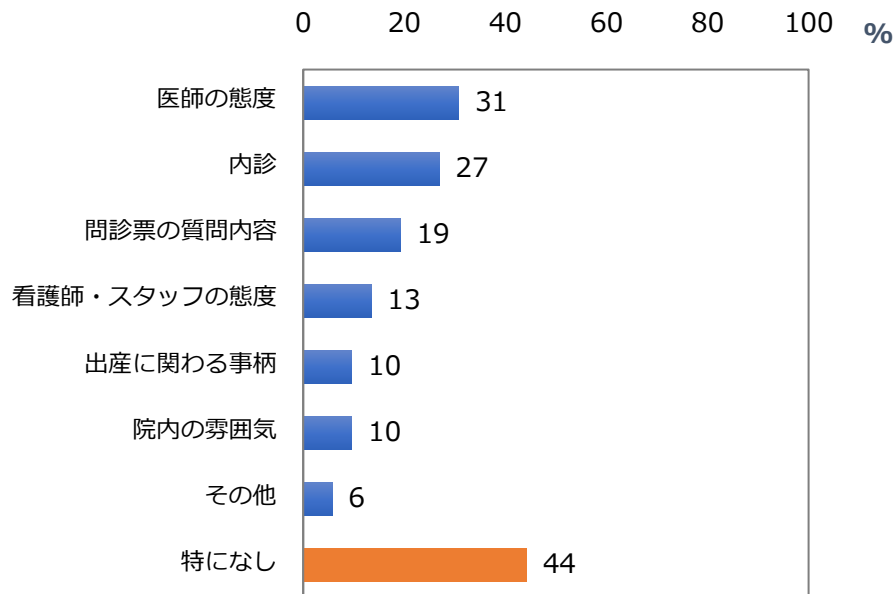
- ・パートナーに性感染症不安があり、その相談で
- ・実家が婦人科だった
- ・診断書のため1回のみ
- ・生理痛軽減
- ・低用量ピルの処方
- ・治験のアルバイト

(結果の概要)

きっかけは、「症状が出た」が55%と多く、次いで「検診」が34%と多い。「検診」のうち12%は、職場等の検診により嫌々ながら受診している。

Q6 これまでに受診した婦人科で、嫌な思い(不安・不快・恐怖など)をしたことはありますか？それはどのような内容でしたか？

(MA) (n=52) (RR100%)



「その他」の自由回答

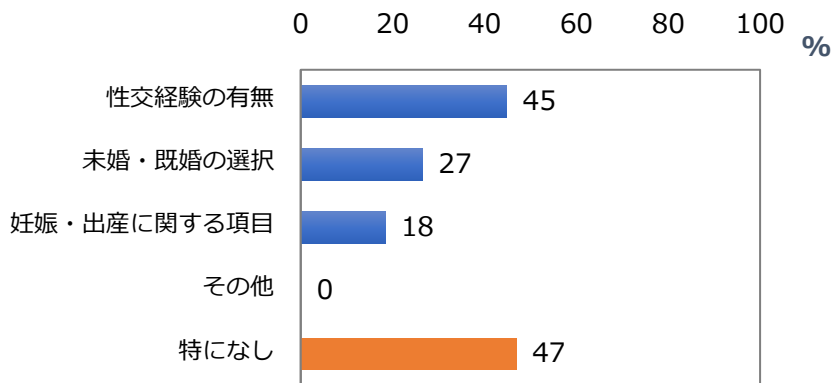
- ・そもそも男性医師がいる意味が分かりません
- ・レズビアンやセクマイ女性も受診すると分かっていること
- ・検査の結果

(結果の概要)

56%の人が、なんらかの理由で嫌な思いを経験している。「医師の態度」が31%と高い。次いで「内診」が27%、「問診票」が19%と高い。

Q7 問診票についてお聞きします。以下の質問の中で、答えにくいものはありますか？

(MA) (n=49) (RR94%)

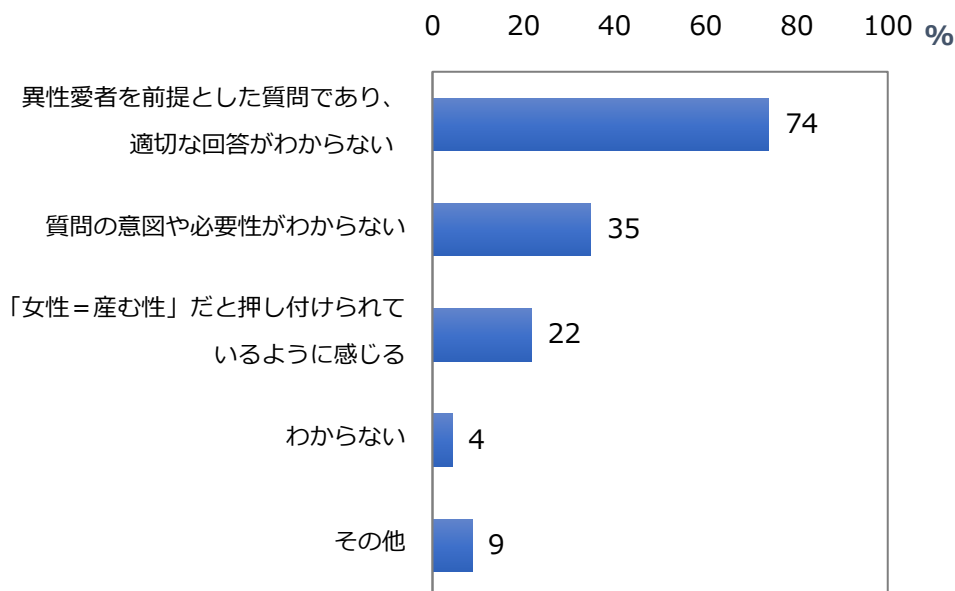


(結果の概要)

53%の人が、なんらかの項目で答えにくさを感じている。「性交経験」が43%と最も高く、次いで「未婚・既婚」が27%、「妊娠・出産」が18%。

Q8 (Q7で「ある」の方へ) その理由はなんですか？

(MA) (n=26) (RR88%)

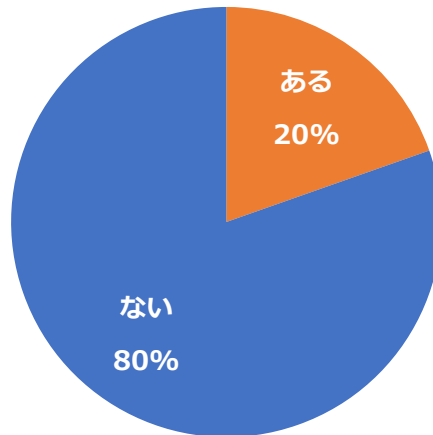


(結果の概要)

74%の人が、「異性愛者前提の質問」に答えにくさを感じている。「質問の意図や必要性がわからない」も35%と高い。

Q9 婦人科でカミングアウトをしたことはありますか？

(SA) (n=51) (RR98%)

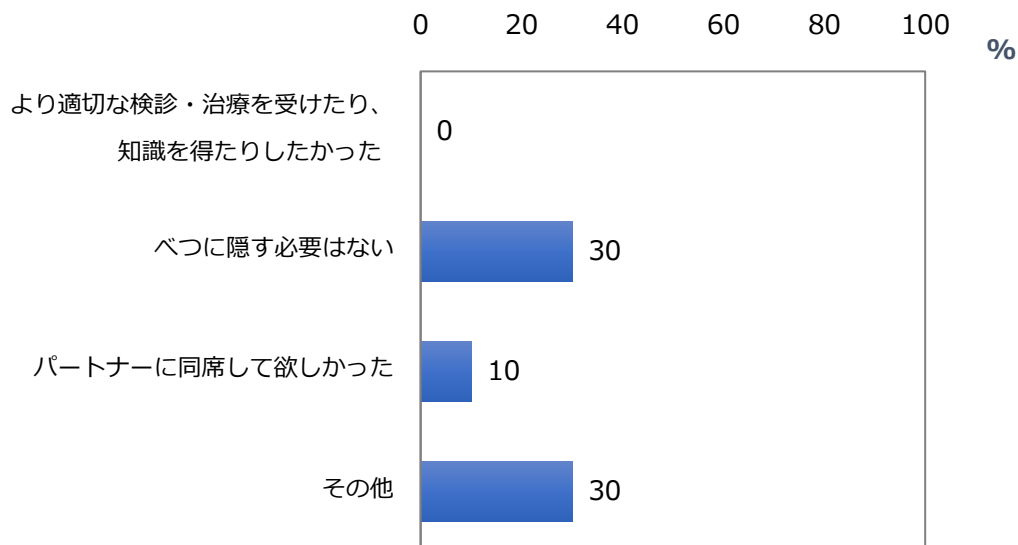


(結果の概要)

カミングアウトする人は20%と少ない。

Q10 (Q9で「ある」の方へ) その理由はなんですか？

(MA) (n=10) (RR100%)



「その他」の自由回答

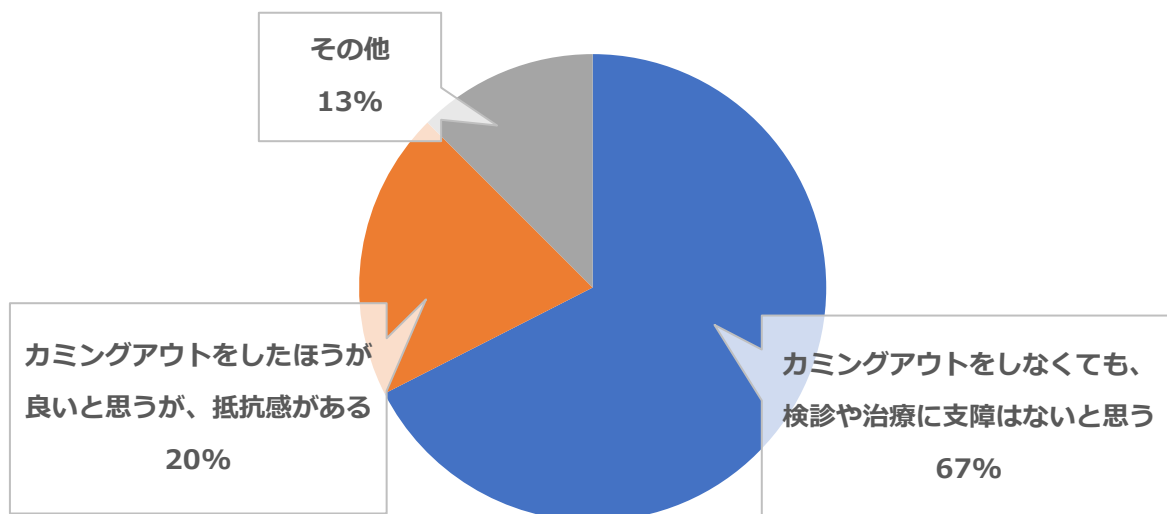
- ・レズビアンやセクマイ女性も受診することを婦人科で認識して欲しかった
- ・診断書のため
- ・問診により、せざるを得ません

(結果の概要)

カミングアウトの理由は「より適切な治療等を受けたかった」が60%と最も多い。

Q11 (Q9で「ない」の方へ) その理由はなんですか？

(SA) (n=40) (RR98%)



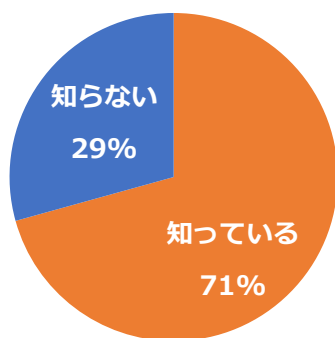
- 「その他」の自由回答
- ・カミングアウトが必要な場面が無かった
 - ・男の医師が、レズビアンと思うと態度が冷たく乱暴になる
 - ・当時は必要がなかった
 - ・聞かれなかった

(結果の概要)

カミングアウトしていなくても、「したほうが良い」と思っている人が20%いる。

Q12 妊娠・出産経験のない女性は、婦人科系疾病リスクが高まることをご存知ですか？

(SA) (n=58) (RR92%)



(結果の概要)

約3割の人が、疾病リスクについて知らなかった。

Q13 セクシュアルマイノリティ女性として婦人科の医療機関、医療従事者にご意見・ご要望があればお聞かせください。

(FA) (n=11) (RR17%)

- ・「結婚すれば～」「出産すれば～」的なことを言わないようになればいいです。
- ・男性に診てもらおうのが嫌だ
- ・性交経験を聞く欄に、相手の身体性別を書くところがあるといいなど。
- ・質問:セクマイ女性だと知った場合に、何か対応を変えたほうが良いと思うことはありますか？
- ・セクマイ女性について基本的なことをまず理解してほしいです。そしてセクマイに理解があることをHPなどで示してもらえれば、より来院しやすくなりありがたいです。
- ・まだ想像でしかないのですが、妊娠した時女性パートナーを連れていけないのかな・・・？とってしまいます。その辺りもオープンになっていけたらと思います。
- ・以前乳がん検診の時、触診、マンモ全て女性の時があつてとても安心して受診できたので、そういう病院が増えるといいです。
- ・全ての先生がLGBT についての基礎知識を持ち、カミングアウトを受けた時にその人の状態に沿ったアドバイス/コメントができることを望みます。
- ・異性との性行為の有無に関わらず、恥ずかしくなく、痛くない診療を受けたいので話せる関係づくりのためセクマイ配慮がある旨を公示してほしい。
- ・異性愛の女性以外もいるということ認識し、受けやすい環境作りをして欲しい。問診票によって、口頭で話さなくてもいい配慮(恥ずかしさ等)はわかるが、逆に顔を合わす前に、異性愛が中心の想定に、お呼びではない感じを強くもってしまうということを理解しておいていただきたい。
- ・婦人科・産婦人科にかかる女性の多くは異性愛者かもしれないが、同性愛者や性別違和を感じているひと、セクマイ女性もいることへの理解を深め、まずは思い込みをなくしてほしい。カミングアウトする患者は少ないと思うが、医療現場での環境向上/診察向上の好機ととらえ『それが診療や治療にどう関係するのか』を物理面・メンタル面の双方より考えてもらいたい。

V まとめ

1. 回答者の属性

年齢は、30代を中心とする20～50代。居住地は概ね首都圏であり、東京都・神奈川県が7割を占めた。セクシュアリティは、レズビアンが51%、バイセクシャルが17%であった。また、13%はトランスジェンダー（FtM、MtF）およびFtXであった。生活の状態としては、カミングアウトをしている人が76%、恋人・パートナーがいる人が25%であった。

2. 婦人科の受診状況を示す指標

①受診率（Q1）

全体の受診率は83%であり、大半の人は受診経験があった。

②受診頻度（Q4）

理想的と考えられる「年に1回以上」受診している人の割合は、全回答者（受診経験のない人を含める）のうちの22%と低率であった。また、受診経験者については、通院・経過観察中の人を除くと、「年に1回以上」受診する人の割合は25%に留まり、「不定期（症状が出た時のみ）」に受診する人が66%と最多であった。

3. 婦人科受診のしやすさ（しにくさ）を示す指標

①受診時の嫌な思いの経験率（Q6）

受診経験者のうち56%の人が、なんらかの理由で嫌な思いを経験していた。内容としては、「医師の態度」が31%と最も高く、次いで「内診」、「問診票」が各々27%、19%と高かった。

②問診票での答えにくさの経験率（Q7）

受診経験者のうち53%の人が、なんらかの項目で答えにくさを感じていた。内容としては、「性交経験の有無」が45%と最も高く、次いで「未婚・既婚の選択」が27%、「妊娠・出産関係」が18%であった。

4. 受診率・頻度に影響すると想定される要素とその影響度の評価

①年齢、職業、年収

②セクシュアリティ

③受診の機会（発症、定期健診）

④パートナーの有無、カミングアウトの有無

※健康に留意してくれる身近な存在や、セクシュアルマイノリティ女性として能動的に生きる姿勢の有無が受診に影響すると想定

⑤婦人科系疾患リスクに関する知識の有無

⑥セクシュアルマイノリティ女性の受け入れ態勢（雰囲気、スタッフ、問診票等）

※①～⑤は回答者側の、⑥は病院側の要素

クロス集計の結果にもとづき、上記要素が受診率・頻度におよぼす影響を評価したところ、セクシュアルマイノリティ女性側では年齢、セクシュアリティ、受診機会、パートナーの有無、病院側では

受け入れ態勢が影響することが示唆された（データ省略）。ただし、本調査では各集団の回答者数が少ないため、本考察は参考程度に留まる。今後はより大規模な調査を行い、各要素の影響を明らかにすることが必要である。

5. 受診率・頻度・受診環境の向上にむけて

本調査により、セクシュアルマイノリティ女性の受診率は約8割と高い一方で、受診頻度は総じて低いことが明らかとなった。婦人科疾病リスクの高いセクシュアルマイノリティ女性は、年に1回以上の定期的な受診（検診）が望ましいと考えられる。全体の受診率をさらに高めるとともに、一人ひとりの受診頻度を高める取り組みが必要である。

本調査ではさらに、受診経験者のうちの5割以上の方が、受診時に嫌な思いを経験していることが明らかとなった。これは極めて問題のある状態であり、病院側の態勢の改善を強く求めていくことが必要である。

発行： NPO法人レインボーコミュニティcoLLabo 〒185-0094 東京都世田谷区玉川 1-3-25
Mail： info@co-llabo.jp Twitter： @collabonpo
Blog： <http://info-event.co-llabo.jp/> URL： <http://www.co-llabo.jp/>

監修： 神奈川県立保健福祉大学 准教授 吉田 安子
玉川レディースクリニック 看護師長 大久保美保

